

NEW! ポッドキャスト『TAMAには映画の話でも。』

『TAMAには映画の話でも。』は、多摩市で毎年開催されている映画祭『TAMA CINEMA FORUM』を運営するメンバーが集まって、気になる映画のトピックをテーマに“ゆるく・楽しく”お喋りする雑談系ポッドキャストです。カフェで隣に座った人たちの他愛もない会話に『聞き耳』を立てて楽しむような、あなたの日常を少しだけ楽しくする、リラックスした空気感の映画トークをお届けしています。通勤・通学中やちょっとしたすきまの時間によろしければ聞いてみてください！



QRコードからお好きなサービスにアクセスください！



Amazon Music



Apple Music



Spotify

Don't miss it!



TCFからのお知らせ

映画祭 TAMA CINEMA FORUM
公式 YouTube チャンネル

映画祭 TAMA CINEMA FORUM 公式 YouTube チャンネルでは、映画祭プログラムや特別上映会でのトークの様など、映画祭にまつわる動画コンテンツを公開中です。TAMA 映画賞授賞式や企画プログラムのゲストトークの様など、第 33 回映画祭のアーカイブ動画も順次アップ予定です。みなさまぜひチャンネル登録をよろしくお願いいたします！



映画祭 TAMA CINEMA FORUM : 公式チャンネル
<https://www.youtube.com/c/tamaeiga-official/featured>

支援会員さまを募集しています！

当映画祭を資金面でサポートいただける支援会員さまを募集しています。支援会員さま限定の特典をさまざまご用意しております。詳細はホームページにて。

<https://www.tamaeiga.org/support/>

【支援金寄付 個人会員】一口 1,000 円から
郵便振替番号 00160-5-541123
加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会

TCFの最新情報やお問い合わせはこちらから

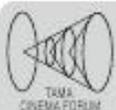
WEB www.tamaeiga.org (TAMA 映画フォーラム実行委員会ホームページ)

SNS @tamaeiga (TAMA 映画フォーラム【公式】)

tama_cinema_forum

www.facebook.com/tamaeiga

tamaeiga



たまシネマ通信 2023 年秋号 (2023/11/11 発行)

発行元: TAMA 映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山 1-5 ベルブ永山 (永山公民館内)

編集・デザイン: TAMA 映画フォーラム会報部会 / 企画・協力: TAMA 映画フォーラム実行委員会

※複製写真の権利は TAMA CINEMA FORUM に帰属します。 ※無断転載を禁じます

映画祭の季節がやってまいりました！

たまシネマ通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA 映画フォーラム実行委員会

〒206-0025 多摩市永山 1-5 ベルブ永山 (永山公民館内)

代表: 042-337-6661 直通: 080-5450-7204 <https://www.tamaeiga.org/>

秋号 2023 年 11 月 11 日発行



CONTENTS

・特別上映会レポート!

・TCF実行委員 これが私の推し映画!

・ポッドキャスト『TAMAには映画の話でも。』



特別上映会 レポート

2023年
6月・7月・8月

6/17(土) 『土を喰らう十二ヵ月』 ゲスト：
中江裕司監督

『土を喰らう十二ヵ月』1回目の上映準備前からロビーで長蛇の列。やはりシニア層が目立った。沢田研二演じる作家ツトム生き方に自らの願望を重ねてスクリーンに入って行ったのだろうか。予想以上の出足であり、その流れは3回の上映全てに繋がって行った。加えて中江裕司監督の3回に渡るトークが抜群に面白く、沢田さんが出演を決めた際のエピソードや、料理研究家の土井善晴さんが「料理は器と共に在る」と執念のこだわりを見せた話など、観客をグイグイ引き付ける話術には舌を巻いた。楽しい上映会でした。*監督！タイガース優勝おめでとうございます！（竹内）

7/22(土) 『20歳のソウル』 ゲスト：
秋山純監督、宮部のぞみ氏

7月の特別上映会では、市立船橋高校の野球応援曲を作った浅野大義さんを描いた『20歳のソウル』を上映しました。船橋からお越しのお客様もいらっしやり、作品や地元への愛を沢山感じました。トークイベントでは、秋山純監督、キャストの宮部のぞみさんにお越しいただき作品への想いや撮影の裏話を伺いました。原作・脚本の中井由梨子さんからのビデオメッセージもあり、温かく充実した時間となりました。（うに）

8/26(土) 『かそけきサンカヨウ』 ゲスト：
宇田川寧プロデューサー

今年最後の特別上映会は多摩市の隣、稲城出身の直木賞作家、窪美澄さんの原作、TAMA映画祭でもお馴染みの今泉力哉監督の『かそけきサンカヨウ』を上映しました。ゲストの宇田川寧さんによる制作の裏話や映画づくりのお話はとても興味深いものでした。今泉監督や窪美澄さんのパネル展示、上田映劇の“旅する映劇はんこ”も好評で、ホールから出てきた皆さんの表情は柔らかく猛暑が続く夏の終わりに一服の清涼剤のような上映会になりました。（JUNJUN）



TCF実行委員 これが私の推し映画!!

『落下の王国』（2008年 / 監督：ターセム・シン）

好きな映画ということで、ターセム・シン監督『落下の王国』(原題：The Fall)を紹介する。撮影中の事故で下半身不随になったスタントマンのロイ、自暴自棄になった彼は骨折で入院中の純粋無垢な少女アレクサンドリアと知り合う。ロイは作り話を通じて彼女を利用し自殺を図ろうとするが、彼女はその壮大な冒険物語に夢中になっていく。

というファンタジーでアドベンチャーな作品なのだが、個人的にストーリーはこの次で、見どころは13の世界遺産と24か国以上で撮影された映像美、そして石岡瑛子による美しい衣装デザインだ。そのエキゾチックな世界観に魅了されること間違いないだろう。だがしかし、円盤は廃盤、配信もないという視聴が困難な作品になっている。観たいなら運を待とう。私には来た。（佐野）

『MONDAYS/このタイムループ、上司に気づかせないと終わらない』（2022年 / 監督：竹林亮）

この映画の舞台は、日々激務をこなす小さな広告代理店のオフィス。主人公・吉川朱海（円井わん）は、大手広告代理店への転職をかけ、一週間休みなく、仕事に打ち込んでいました。月曜日の朝、後輩2人組から「僕たち、同じ一週間を繰り返しています！」と告げられ、タイムループに閉じ込められていることに気づきます。社員たちは1人1人それを自覚していき、残すはタイムループ脱出の鍵を握る永久部長（マキタスポーツ）のみ！社員全員一致団結してタイムループ脱出を目指す「オフィス・タイムループ・ムービー」です。ループ脱出のため試行錯誤しながらも、通常業務をこなし、それに加えてより良い仕事や自身のスキルアップも目指していく社員たちの描写が、日本人ならではの、タイムループ映画なのに共感できる、新鮮さが大好きです。

コメディ要素だけでなく、後半にはくつと心にしみる「社会人×タイムループ」映画の奥深さが、将来や仕事に漠然とした不安を抱えていた就活中の私にとってもさきりました。私のような学生から毎日お仕事を頑張る社会人の方まであらゆる人の心にささる前向きになれる映画です。観たことのない方は是非観ていただきたいです。（桃）

『南極料理人』（2009年 / 監督：沖田修一）

西村淳氏の小説「面白南極料理人」、「面白南極料理人 笑う食卓」を映画化したもの。海上保安庁の厨房に勤務する西村は、急遽、第38次南極地域観測隊のメンバーとして派遣された。彼の任務は、他の隊員8名に料理を作ること。約1年半、個性的な隊員たちとの日常をリアルに描いた作品だ。私は、アニメ「宇宙よりも遠い場所」を見て南極に興味を持ち、以降は書籍を読んだり、立川にある「国立極地研究所 南極・北極科学館」を訪れる等して、南極に浸っていた。そんな折、配信サイトでこの映画の存在を知った。舞台が南極！しかも主演が堺雅人さん！！ということで、面白そうと思ったのだ。

正直、絵面としては大変地味である。淡々と日常パートが続き、派手な事件が起きるわけでもない。しかし、個性豊かな隊員たちの姿は見ている飽きないし、食事のシーンは温かみを感じる。視聴者もいつしか、隊員のメンバーになっているような感覚になるほど、リアルな演出と芝居も見どころだ。少し寂しいなど感じている時に観ると、ほっこりして元気になれる。そんな名作である。

（パン）